

平成24年3月30日

# 左京区 伝統行事 ネットワーク かわらばん

第11号 発行：左京区役所区民部総務課

左京区役所では、区内に数多く守り伝えられている伝統行事を将来にわたって保存・継承するとともに、その魅力を広く発信し観光振興に役立てるため、「左京に息づく伝統文化の保存・継承と観光振興」に取り組んでいます。3月13日に「第13回左京区内の伝統行事の保存会等によるネットワーク会議」を開催しましたので、お伝えします。

## 第13回 左京区内の伝統行事の保存会等によるネットワーク会議

・日時：平成24年3月13日（火）午後2時～4時

・場所：左京区役所 中会議室1

・内容：・講演「未来へつなく地域の伝統」

・講師 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 講師 佐々木厚司 先生

・意見交換

・参加：17団体24名（一乗寺八大神社剣鉾保存会、一乗寺郷土芸能保存会、市原ハモハ尼講中、石座神社奉賛会、大原伝統文化を守る会、上高野念仏供養踊保存会、北白川伝統文化保存会、久多宮の町松上げ保存会、鞍馬火祭保存会、修学院紅葉音頭保存会、大文字保存会、広河原松上げ保存会、広河原郷土芸能保存会、松ヶ崎妙法保存会、松ヶ崎題目踊・さし踊保存会、八瀬郷土文化保存会、吉田剣鉾保存会）

### 講演内容

○現在、特定非営利活動法人「生活環境づくり21・NPOフォーラム」として、京都市内各地でまちの賑わい創出のため、地域イベント等の提案や人的支援に取り組んでいる。

○松ヶ崎地域では、左京区総合庁舎の松ヶ崎への移転が決まったのをきっかけに、小学校・大学・地域の連携の模索を始め、松ヶ崎小学校運営協議会とおやじの会、京都工芸繊維大学、地域団体関係（葵小学校、ノートルダム女子大含む）等による「左京松ヶ崎連携推進ネット」を設立した。平成21年には、松ヶ崎歴史遺産シンポジウムを企画し、実施に先駆けて、伝統芸能の継承につ



いての課題を調査するため、松ヶ崎学区の全戸へアンケート調査を実施した。アンケートでは、松ヶ崎の景観、歴史、文化への興味についてや、これから地域でどのような活動が必要であるかについての調査を実施し、松ヶ崎妙法送り火等の目の届きやすい観光資源については関心が高く、「松ヶ崎題目踊・さし踊」等については関心が低いと分かった。その結果を踏まえて、平成22年度には「松ヶ崎題目踊・さし踊」を広く地域に普及するため、行事の普及に向けた取組や、地元の方へのインタビュー、行事当日の様子等を

収めた記録映像（DVD）の作成、鑑賞や「さし踊」学習会（夏～秋で約3回）を行い交流の機会づくりを行った。DVDの作成の際は、大学生が伝統行事をととても新鮮に感じ、情熱をもって取材等に取り組んでいたことが印象深かった。

○伏見区では、中書島界隈の賑わい創出のため、伏見夢みなとまちづくり会議が「伏見夢みなとまつり」等を行った。「伏見夢みなとまつり」では、子どもによる「こども弁天囃子」が披露され、「京都市伏見区弁天囃子保存会」が発足するなど新たな動きが生まれた。

○北区、上京区に広がる大將軍・仁和地域では、一条大將軍にぎわいづくり会議を中心に、まちおこしに取り組んでいる。「その昔捨てられた小道具たちが100年の時を経て魂を宿し、<sup>つくもがみ</sup>「付喪神」となり夜な夜な練り歩いた」という言い伝えがあることにちなみ、商店街で子どもや学生等が、妖怪パレードを行ったり、大將軍八神社秋祭りにおいて、ワークショップ等様々な企画を行ったり、「節分まつり」、「一の市」（フリーマーケット）を行っている。この取組は、和太鼓・おろち引き等の伝統文化の振興にも繋がっている。

○各地域での取組を通じて、未来につながるまちづくりのために、伝統行事はととても重要であると感じている。皆で思い・感動を共有し、互いに思いやりを持ち、絆を深めることができる。

○伝統継承のためには、例えば、小学校等との連携による、地域の交流のための場づくりが重要である。交流により、消えかけていた文化が復興したり、新たな伝統づくりに繋がることもある。

## 意見交換

【松ヶ崎妙法保存会、松ヶ崎題目踊・さし踊保存会】平成22年度のDVD

作成の際には、どのようなものが出来上がるのか心配であったが、大学生が熱心に取り組む学んでいく中で、立派なものとなったので良かった。ただ、いわゆる「ムラ」の中で生まれたこういう行事を、「ムラ」という形態がなくなりつつある地域の中で、今後どのように継承していくことができるのか真剣に考えなければならない。現在取り組んでいる小学校等との連携は解決策の一つであると思う。

【修学院紅葉音頭保存会】今年度から小学校と連携し、講習会を行っている。今までは、地域の一部の者しか音頭を知らない状況であったが、講習会等を通して、今後は地域の多くの人に音頭を知って踊ってもらいたいと思っている。

【一乗寺郷土芸能保存会】保存会では高齢化が進んでおり、当日の参加者も少ない。多くの人に参加してもらえるような仕組みづくりを、小学校と連携しつつ検討したい。

【上高野念仏供養保存会】現在は、児童館の子どもに講習会を行っている。24年度からは、新たに小学校の高学年向けに講習会を行う予定である。行事を守りつつではあるが、継承のための場づくりに取り組んでいきたい。

【北白川伝統文化保存会】伝統を守りつつも、子ども等に楽しんでもらうために、会場で夜店を出している。踊りの際は夜店の営業を一旦中止して、踊りに参加してもらい、終われば再開するというような工夫をしている。

【鞍馬火祭保存会】継承のための一番の課題は、松明作りのための材料の確保である。毎年材料をいかに確保して、祭りを継承していくかが難しい。

【石座神社奉賛会】よく“火”の祭りであると思われるが、あくまでも例大祭の朝の神事の一つで松明を灯す場面があるということである。行政が情報発信する際には、気を付けてほしい。

